

飲水の塩素濃度が採卵鶏に及ぼす影響

畜産技術センター

要 旨

飲水中塩素濃度200ppm以下では、200ppmで一時的な飲水量と産卵率の減少・低下がみられるが、産卵状況・卵質を含め採卵鶏への顕著な影響は認められない。採卵鶏飼育者や指導機関は、事故等により一時的に設定以上の塩素が混入する可能性に配慮しつつ、水道法に準じた飲水消毒（塩素濃度0.1～1.0ppm）を安心して実施・指導できる。

成果の概要

採卵鶏に対して塩素濃度0、50、200、400ppmの飲水を給与すると、0及び50ppmでは飲水量への影響は認められないが、200ppmでは1～7日時に一時的に減少し、400ppmでは投与期間中、継続して減少する(図1)。なお、800ppm以上では飲水自体を行わない。

産卵率は200、400ppmで飲水量が減少する1～7日時に低下するが、その後回復する(図1)。

卵殻破壊強度、卵殻厚については塩素濃度による影響は認められないが、鮮度の指標となるハウユニットは、400ppmにおいて産卵率と同様、1～7日時に低下する(図2)。

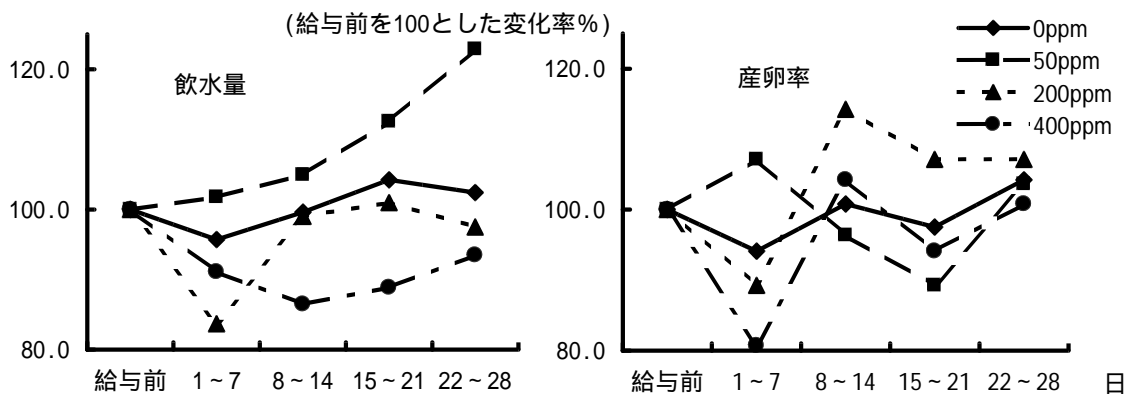


図1 塩素濃度による飲水量及び産卵率の推移

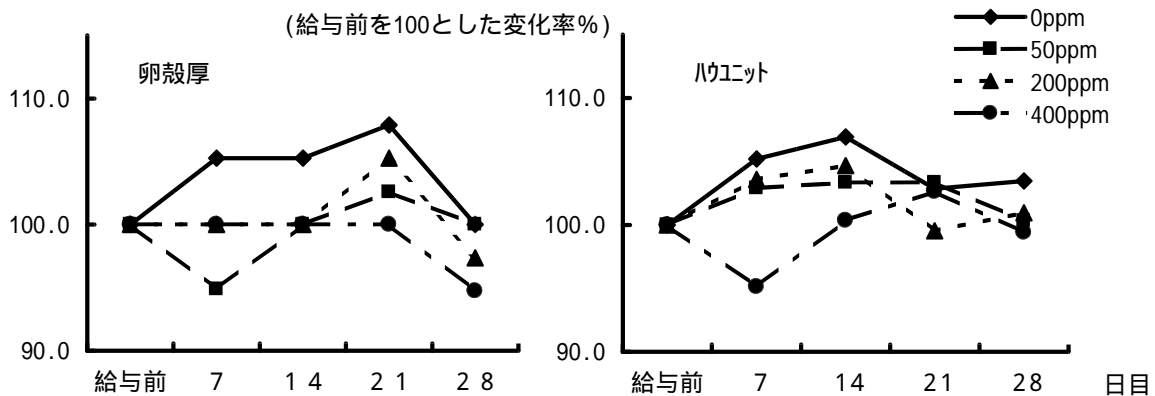


図2 塩素濃度による卵殻厚及びハウユニットの推移

(問合せ先: Tel. 0773-47-0301)